

令和3年度 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究

地域支援における調査研究取組について(1年次)

～自立活動の指導の充実に結び付く、
ICT活用を取り入れた地域支援の在り方～

令和4年2月22日(火)

京都府スーパーサポートセンター(SSC)

宇治支援学校 地域支援センターうじ

京都府スーパーサポートセンター

Kyoto Prefecture

Super Support Center



I 概要

地域支援における調査研究取組について(1年次)

～自立活動の指導の充実に結び付く、ICT活用を取り入れた地域支援の在り方～

京都府スーパーサポートセンター

Kyoto Prefecture

Super Support Center



「令和3年度 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究」 ～自立活動の指導の充実に結び付く、ICT活用を取り入れた地域支援の在り方～

1 背景・課題

➤ 自立活動の指導の悩み

- ・自立活動って何をすればいいのか。
- ・実態把握が適切にできているのか不安。
- ・課題がたくさんあるので何を優先したらよいのか分からない。
- ・実態把握から目標はどのように設定するのか。
- ・具体的な指導内容の設定が難しい。
- ・担当者が抱く、教科指導とは異なる難しさ。

➤ 本研究に関わる課題整理

- ◆ センターの機能を担う特別支援学校の「自立活動の指導力」を生かして、通常の学級も含めた担任等を支える機能と仕組み。
- ◆ 対面のための相談支援においては、「自立活動の指導」の一連の流れ全ての助言と支援には限りがある。

自立活動×ICT

- ICTの良さを生かした相談支援の実施
- 自立活動の指導の理解へ

2 目的・仮説・内容

➤ 目的

- ❑ ICTを活用した自立活動の**指導の充実**と**実践力の向上**

➤ 仮説

- ❑ 遠隔による助言と支援により、担任等が個のニーズに合った多様な指導を実施でき、担任等の指導力・資質向上につながるのではないか

➤ 内容

Webフォームを活用した実態把握



遠隔による実践事例の蓄積

遠隔による相談支援環境整備の分析

オンラインを活用した研修支援 等

3 1年目の成果と課題

➤ 成果

- Webフォームで実態把握を行うことで児童生徒の様子等が蓄積され、校内における情報共有が進んだことで、組織的な対応・支援へつながった。
- 「流れ図」による情報の整理と指導項目の関連付けが行いやすくなった。
- 遠隔相談が約25%を占め、そのうち8割の教員がコロナが収まっても遠隔相談を利用したいと回答。相談の機会の拡充。

➤ 課題

- 支援地域ごとに異なる通信環境等に応じた支援の在り方
- 学校間におけるデータ共有システム
- 自立活動の指導計画作成と「流れ図」使用におけるWebフォームの更なる活用

Webフォームによる実態把握の可視化

ICTの自立活動指導パッケージ化

京都府の特別支援教育ネットワークの活用

→地域支援コーディネーター研究協議会

→総合教育センターや各教育局、市町教育委員会等との連携

研究から見た課題

- 1 支援地域ごとに異なる通信環境、情報端末等に応じた支援の在り方整理
- 2 学校（園）間におけるデータ共有システム
- 3 自立活動の指導の計画作成と「流れ図」使用におけるWebフォームの更なる活用

小中学校特別支援学級等における、自立活動の指導の「実態把握」と「指導目標と内容の設定」までの流れの理解

各地域の相談連携ネットワークの活用

具体的な
目指す
ゴール

仮説

- ・ICTの特徴・強みを生かした地域支援を行うことで自立活動の指導の充実と改善がより可能になるのではないか
- ・遠隔も含めた相談対応システムによって待ちの解消となるのではないか

地域支援センターうじ

SSC視覚支援
SSC聴覚支援
府内全域相談支援

遠隔や動画配信
による研修支援

Webフォーム、アプリケーション活用による実態把握
「流れ図」による自立活動の指導の整理
データの記録と蓄積、

方法
ツール

成果

- 1 Webフォームによる児童生徒の実態把握と情報収集
- 2 「流れ図」による思考整理、それを活用した自立活動の指導の充実
- 3 遠隔による担任等のニーズに合った相談支援の機会の拡充

▲センター的機能を担う特別支援学校の「自立活動の指導力」を生かした通常の学級も含めた担任等を支える機能と仕組み

▲Wi-Fi通信環境や情報端末等のICT環境整備

▲相談件数の増加と待ち状況

背景

ICTを活用した自立活動の指導の充実と実践力向上に向けて

研究
仮説

- ・ Webフォームやアプリケーションを活用して実態把握を「見える化」することにより、自立活動の効果的な指導方法を示すことができるのではないか。
- ・ ICTの「保存性」「数値化」「即時性」「双方向」等の良さを生かすことで評価と指導の一体化を図ることができるのではないか。

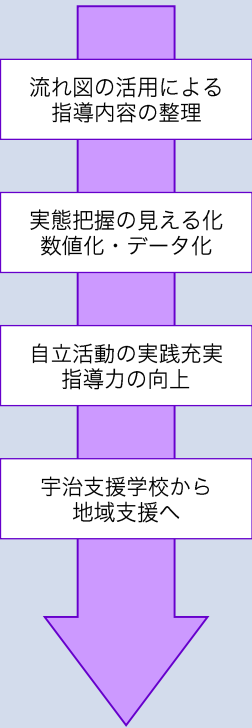
研究
目的

- ・ 学習上又は生活上の困難さの改善と克服のための、アナログ・デジタル双方からのアプローチの充実
- ・ 実態把握の見える化とそれによる効果的な指導法による学びの充実
- ・ 遠隔による自立活動の指導への相談支援の機会の確保
- ・ 自立活動の多様な指導の実践と担任等の指導力・資質の向上

研究
課題

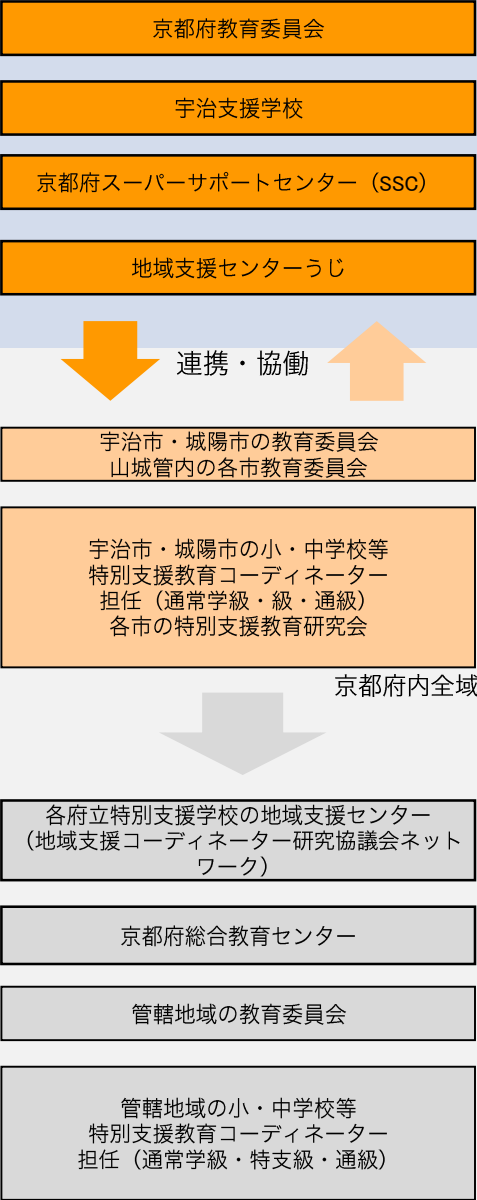
- 令和3年度の課題
- ・ 学校全体としての自立活動の実践力の向上
 - ・ ICT教材やアプリケーションを活用した実態把握等見える化実例の蓄積と更なる活用
 - ・ 通信環境・端末等の違いに応じた支援の在り方やデータ共有システムの整理

研究
内容



項目	取組内容（本校）	取組内容（地域支援）
①遠隔でのやりとりを含めた、児童生徒の実態把握の在り方の研究	・ 情報端末やアプリケーションを参考にした実態把握と、実態の即時的な見える化 ・ クラウド上でのデータ管理 ・ 根拠に基づいた個別の指導計画の作成など	・ Webフォームを活用した実態把握、指導計画の作成、各障害に応じた指導方法の改善のためのアンケート調査と分析 ・ 「流れ図」を活用した自立活動の指導計画作成における活用法の整理など
②自立活動や通級による指導について、遠隔による実施を含めた指導及び評価の在り方の研究	・ 情報端末やアプリケーション等を活用した変容の数値化やデータ化、及び評価データの集積と解析 ・ 不登校の児童生徒における、orihime等を活用した遠隔においても可能な自立活動の指導など	・ 障害に応じた自立活動の指導の指導者支援パッケージの作成 ・ 1人学級をサポートするTeamsアプリケーションを活用したネットワークづくりとそれを活用した助言と支援など
③遠隔でのやりとりを含めた、外部の専門家や在籍学級担任等との連携の在り方の研究	・ 遠隔での連携の利点と課題の整理 ・ 遠隔による相談支援の実施に必要な環境整備の分析 ・ 外部専門家との連携や会議におけるICTを活用した実践事例の蓄積など	・ 自立活動支援担当と連携した、遠隔による自立活動に関わるセンター的機能の在り方整理 ・ 視覚・聴覚障害等の特別支援学級における遠隔による各障害種の指導者間交流や研修の実施など

研究
組織



2 実践報告

地域支援における調査研究取組について(1年次)

～自立活動の指導の充実に結び付く、ICT活用を取り入れた地域支援の在り方～

京都府スーパーサポートセンター

Kyoto Prefecture

Super Support Center



地域支援での取組報告

SSC視覚支援

地域支援センターうじ

実践A: 自立活動の指導におけるICT活用する際の留意点

- 1 ICT機器の導入や活用についての個別の指導計画
 - ・いつ頃、どのように、どのICTの使用を始めるのか
 - ・本人に有効なICT活用のアセスメント
 - ・自立活動の指導の内容と各教科学習への汎化
- 2 ICT機器の使用について本人と目的を確認する
 - ・本人の気持ちを汲み取りつつ、自分に合った学習に必要なICT機器の活用について、継続的に一緒に考える機会を丁寧に作る
- 3 本人、保護者、学校(担任)、専門家、関係機関(SSC視覚担当等)との連携と情報共有

実践概要 1

- ・現在、中学校 1年生 女子
- ・小学校 特別支援学級(視覚障害)在籍、1~3年担任は持ち上がり
- ・「何のために単眼鏡やデジタル機器を使うのか」という目的を本人と繰り返し確認

小学校2年

- ① iPadのカメラ機能を使用して、黒板を手元で見る
- ② 交流学級での使用を想定
- ③ 周りの友達と違う学習方法に悩む本人の心理的安定(自立活動の指導)

自立活動の指導で
「ICT機器の使用」
+
「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」

交流学級での使用

実践概要2

- ・キーボードを使用したローマ字入力
- ・「みんなと同じノートに書く!」⇒段階を踏んで交流学級での使用
- ・小6 One Noteの使用、教科ごとにノートを分け、授業を聞きながら、要点をまとめる
- ・フォルダの整理の仕方を自立活動の指導で行う
- ・iPadでUDブラウザを使用

ICT機器が便利なことも、必要なことも分かる...

だけど、友達と違うことへの不安

本人と「なぜ使うのか」「目的」を繰り返し考える

本人の思いを丁寧に聞き、本人が受け入れられる形から実施

中学校では皆が使う環境

その他のICTを活用した取組について

- ・遠隔による相談支援(1名は現地、1名は遠隔 Zoomでの参加)
- ・専門家による遠隔での相談支援の実施
- ・GIGAスクール構想が進み、ICTが使いやすい学校環境になっている

⇒「視覚サポートシート」と「個別の指導計画・個別の教育支援計画」との連携
⇒自立活動の指導で扱う内容(ICT機器の使用方法+本人の状態等に合わせた自立活動の指導内容)

*実践Aで見えてきたことを、他のケースへ汎化していく



地域支援センターうじ 動画